

拠点化に向けた都市デザインの基本的な考え方



都心軸



交流軸



基幹公共交通軸

H29.8.3

第1回懇談会資料

古町地区

都心回帰モデルとして多様な機能の再集積を促進

西堀四つ角を中心とした既存施設の高度利用、及び、賑わい空間の創出

区役所移転を契機としたまちなかへの集客促進

みなとまち文化や歴史的建築物を結ぶ散策路・回遊空間の創出

新潟を象徴する空間デザイン

街や空の広がりを感じる通りの空間創出

人が憩い・集う広場の空間・動線整備

新潟の玄関口として相応しい風格と個性を兼ね備えた景観形成・機能強化
万代広場

新潟駅周辺地区

南口広場

上越新幹線を各地に結びつける二次交通結節機能の強化

民間活力を導入した南口低未利用地の利活用

観光や都市情報の発信機能やターミナル機能の強化

拠点化に向けて取り組むべき課題

- ① 新潟のイメージやブランドを感じさせる新潟駅周辺のデザインづくり
- ② 新潟駅～万代島・古町へ人を導く仕掛けづくり(快適な歩行空間の形成)
- ③ 信濃川・西港の水辺を活かした賑わいエリアづくり
- ④ 西堀・榎谷小路を中心とした古町の新たな魅力を感じさせるエリアづくり
- ⑤ みなとまち・食文化に着目した観光資源の活用や情報発信
- ⑥ それぞれの軸上にある拠点間を結びつける快適で楽しめる移動環境の充実 など

拠点化に向けた理念と目標

みなとまち新潟の発信

川や港を活用した賑わいづくりを通じて新潟らしさを活かした拠点化を目指す

万代・万代島地区

開港150周年を契機に、信濃川・西港の水辺空間を新潟独自の魅力として磨き上げ、街なかの新たな賑わい空間として活用

萬代橋を中心とする水辺空間の回遊性を高め、広がりある街なかを創出

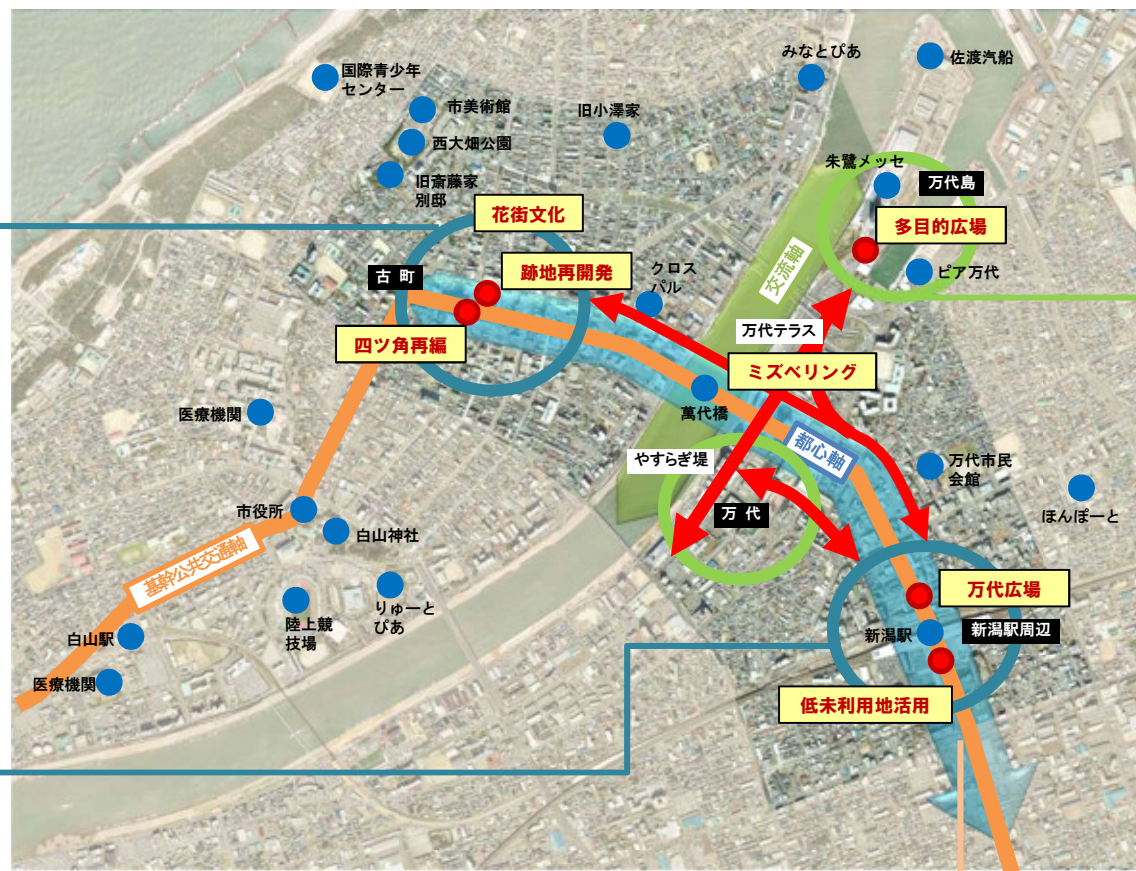
万代地区とも連動した賑わい交流拠点として、みなとを活かした環境整備を推進

港の風情やにぎわいといった人々が歩いて移動したくなる歩行者空間整備により新潟駅からの回遊性を向上

高架下交通広場の整備に合わせ、万代広場・南口広場発着のバス路線を再編、都心軸の一体化を促進

快適に動ける空間整備

古町と新潟駅間の距離を感じさせない快適な移動環境を整備



都心軸の延伸
(鳥屋野潟方向へ)

「日」の字型の
基幹公共交通軸の整備

基幹公共交通軸沿線

まちなかへ誘う移動手段の実現

1 はじめに

拠点化に向けたまちづくり懇談会資料より

参考資料：新潟歴史双書、図説新潟市史、新潟市のあゆみ

①なぜ都市デザインを描くか

求められている拠点性の向上

- 少子・高齢化に対応し、持続可能な都市になるため、市民が集うにぎわい創出や交流人口の拡大による活性化が不可欠

拠点性向上のための都心部の役割の明確化

- 中核的な業務・商業機能が集積する都市の象徴的な市街地
- 様々な魅力・交流から、新たな情報発信や文化が創造・発信される場所
- 高次都市機能が集積した「都市の顔」

新潟市はまちづくりの節目を迎える

- 2018年度は開港150周年や新潟駅の高架駅第一期開業など新潟市のまちづくりが大きな節目を迎える

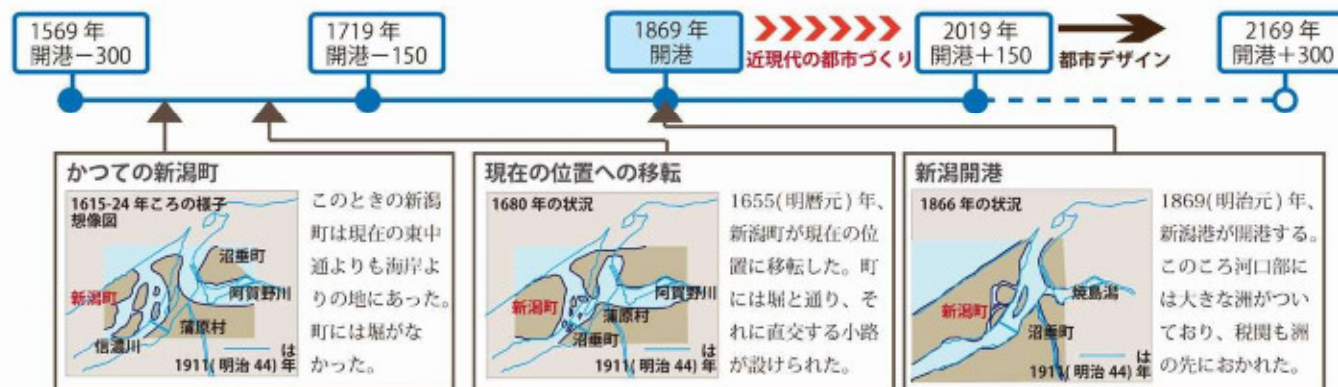
都市デザインのポイント

- 新潟がこれまでの歴史の中で蓄積したものを集積し、それが市民のくらしと結びつくような、魅力ある新潟のイメージが持てるデザイン
- コンセプトが明確でわかりやすく、共通の視点をもつことでこれからのまちづくりに活かせるようなデザイン

②都市デザインを描くために

次の150年を見据えるために

- 開港から150年を迎える節目の今、これまで続いてきたまちづくりの流れを途絶えさせることなく、新しい新潟の都市デザインを描くために、現在の新潟に至るまでの都市構造の変遷を振り返る



都市デザインの基礎

- 信濃川の恵みにより発展してきた新潟市は、川がもたらす砂と水への対応を通じて、その都心を形成してきた
- 一方で、信濃川の流れに向かって垂直に交わる都市づくりを行うことで、新潟市は発展の礎を築いてきた

2 新潟都心の都市構造の変遷と今後

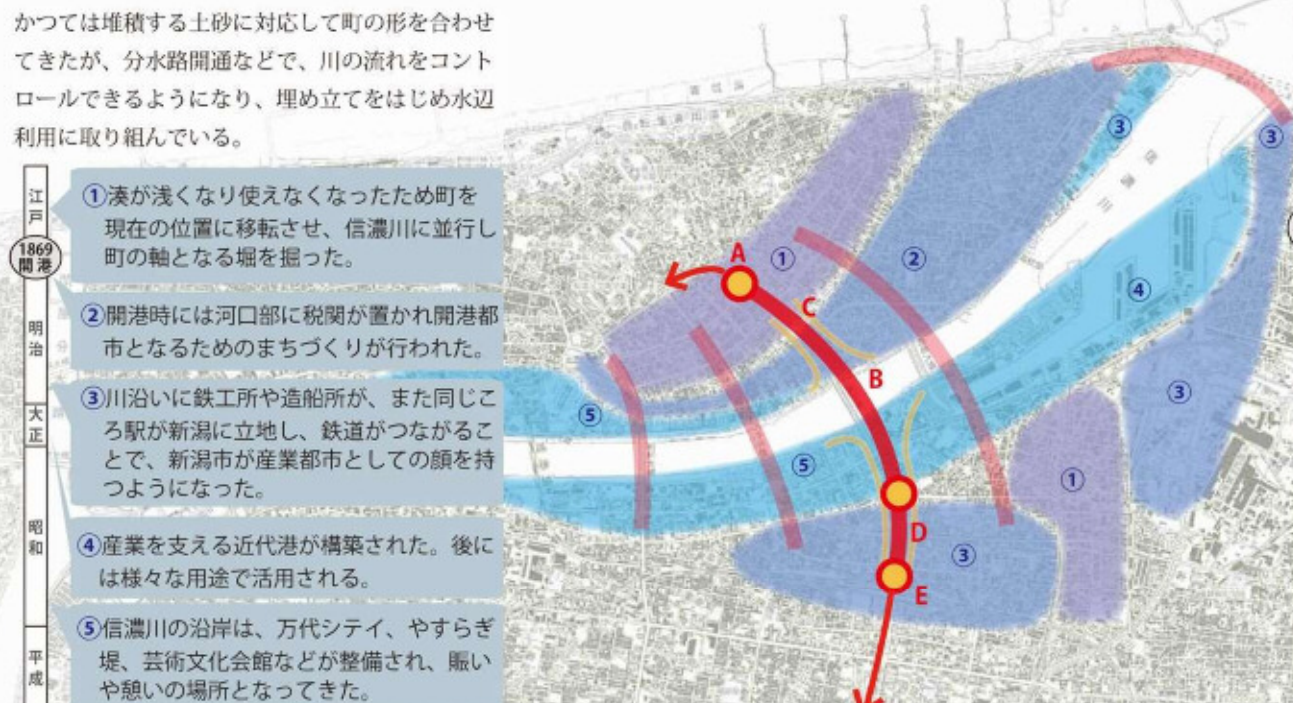
拠点化に向けたまちづくり懇談会資料より

参考資料：新潟歴史双書

①新潟都心の都市構造の変遷

信濃川に並行する 横の都市づくり（面）

かつては堆積する土砂に対応して町の形を合わせてきたが、分水路開通などで、川の流れをコントロールできるようになり、埋め立てをはじめ水辺利用に取り組んでいる。

- 
- ① 湊が浅くなり使えなくなったため町を現在の位置に移転させ、信濃川に並行し町の軸となる堀を掘った。
 - ② 開港時には河口部に税関が置かれ開港都市となるためのまちづくりが行われた。
 - ③ 川沿いに鉄工所や造船所が、また同じころ駅が新潟に立地し、鉄道がつながることで、新潟市が産業都市としての顔を持つようになった。
 - ④ 産業を支える近代港が構築された。後には様々な用途で活用される。
 - ⑤ 信濃川の沿岸は、万代シティ、やすらぎ堤、芸術文化会館などが整備され、賑いや憩いの場所となってきた。

信濃川に垂直な 縦の都市づくり（縦軸）

信濃川に沿って層のように分布する新潟の町と町をつなぐことで、異なる新潟の機能を一体化し、さらなる発展を導いてきた。代表的かつ重要な軸は、都心軸。

- A 小路：信濃川や堀に直交する小路を導入した。榎谷小路は町の中心にあった奉行所と町会所をつなぐ小路で、新潟町と沼垂町をつなぐ交通は舟運によるものだった。
- B 萬代橋：新潟町と沼垂町をつなぎ、その後の新潟市の発展の礎を築いた。
- C 榎谷小路：萬代橋と新潟の奉行所跡をつなぎ、初期の都市計画で新潟の軸とされた。
- D 東大通：新しい新潟駅と、旧萬代橋東詰を結ぶ大幅員道路として設計され、陸の玄関口のメインストリートとなった。
- E 新潟駅：高架化によって新潟駅南北の市街地が一体化し、さらなる拠点性の向上をめざす。

②今後の都市デザイン

- 開港から150年、新潟の都心は信濃川に向かって層状に拡がり、それらの市街地が縦の軸によって深くつながり発展してきた
- 層状に拡張した市街地の中では、さらにその空間が高度化・多機能化し、今まで発展を支えてきた都市機能の更新や身近なまちづくりが始まっている
- これからの新潟都心の都市デザインは、それぞれの面の成り立ちや特色を活かしたまちづくりの上に、**みなとまちの発展の歴史を、歩行者や公共交通で移動する人が実感できる、信濃川や港を核としたまちづくりを展開する**

3 新潟都心の都市デザイン

拠点化に向けたまちづくり懇談会資料より

参考資料：新潟歴史双書

①都市デザインの出発イメージ

新潟を特徴づけてきた、奉行所から始まる軸の都市づくりは、150年かけて新潟駅へとつながってきた。開港150周年を契機に、今度は新潟駅から、地域への愛着と誇りを醸成するような、人を中心とする新しい新潟の軸を考える。

新潟駅から始まる新しい新潟の軸とは…

- かつて信濃川に並行して堀と通りが設けられ、それが新潟の都市構造となったように、今度は、信濃川に向かう新しい新潟の軸として、都市構造を構築する。
- それぞれのエリアで特色あるまちづくりが展開され、通して歩けばこれまでの新潟の歴史を理解できるような軸を目指す。(新潟駅～古町間で約2km)
- 将来的には、この軸が新潟市の都市イメージとなり、新潟にとっての「都市」のアイデンティティとなることを目指す。



シャンゼリゼ大通り (パリ)
…約2km



大通公園 (札幌市)
…約1.5km

②新潟駅から始まる取り組み

